

正嘉地震大瑞御書

文永期

去ぬる正嘉元年^{丁巳}大地震^{此の大瑞日本の日記に見ざるか} 日蓮諸経を引き勸ふるに、念仏宗と禅宗等との邪法
此の国に出現し、存の外に^{ぞん ほか} 国中の上下鎮護^{ちんご} 国家の為の大法を蔑如^{べつじょ}せしむるに依って、法
華・真言の国中守護の諸大善神^{しんに} 瞋恚^なを為し、悉く他国に向かふが故に起こる所の災難な
り。此の国将に^{まさ} 他国に襲はるべし等云云。具^{つぶさ} には故最明寺入道殿に奉る勸文の如し^{谷士野禅門之を尋ぬべし。}
念仏者並びに檀那等之を聞きて怨を成すこと、譬へば不輕菩薩の増上慢の四衆の如し。